

科目名	日本事情Ⅲ Japanese Situation Ⅲ			担当教員	山崎 容次郎		
学年	5	学期	通年	科目番号	08139	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	履修条件	必履修		
学習目標	日本語に親しみ、機械工学の専門用語に関して理解し使いこなせる能力を習得する。より深く日本事情に通じるよう、時事問題などについても考えられる資質を養う。						
進め方	専門科目の問題、工学実験のレポートおよび卒業研究のレジメなどを題材に、音読、説明、討論、思考、筆記することで、専門用語を交えた日本語の使い方を習得する。折りに時事問題に触れながら、日本を取り巻く環境、日本語としての考え方について、適宜、説明・補足を加える。						
学習内容	学習項目（時間数）			合格判定水準			
	1. 専門科目についての質疑応答（7） （1）座学についての質疑応答 （2）工学実験Ⅱのレポートについての質疑応答			・専門科目や工学実験のレポートについて、日本語で音読、説明、討論、思考、筆記することができる。			
	2. 専門科目についての質疑応答（7） （1）座学についての質疑応答 （2）卒業研究中間発表のレジメについての質疑応答			・専門科目の例題を題材に、日本語で音読、説明、討論、思考、筆記することができる。 ・卒業研究中間発表用のレジメが書け、それを説明することができる			
	卒業研究中間発表			（発表状況を評価に加える。）			
	3. 専門科目についての質疑応答（7） （1）座学についての質疑応答 （2）卒業研究の経過報告についての質疑応答			・専門科目の例題を題材に、日本語で音読、説明、討論、思考、筆記することができる。 ・卒業研究の経過報告が行え、また、それに関して質疑応答ができる。			
	4. 専門科目についての質疑応答（7） （1）新聞記事の読解 （2）卒業研究の経過報告についての質疑応答			・新聞記事に見られる現代の問題を理解することができる。 ・卒業研究の経過報告が行え、また、それに関して質疑応答ができる。			
評価方法	後期末作文試験（1）			・後期末に作文試験（800字）を行い、50%として評価する。 ・前期末の卒業研究中間発表のレジメ、および発表状況を50%として評価に加える。			
	試験返却（1）						
学習・教育目標との関係	機械工学コースの学習・教育目標との対応 学習項目1～4に対して ◎：（D）コミュニケーション、D-1日本語により、記述、説明、発表、あるいは討議できる論理的な思考力やプレゼンテーション能力を身につける。						
関連科目	日本語Ⅰ（3年）、日本語Ⅱ（3年）、日本事情Ⅰ（3年） 日本語Ⅲ（4年）、日本事情Ⅱ（4年）			} → <u>日本事情Ⅲ</u> （5年）			
教材	専門科目の題材は、興味のあるものを学生に持参してもらう。 時事問題については、タイムリーなものを教員から提示する。						
備考	受講対象者：留学生（能力差により、内容を適宜、見直すことがある。）						